



出たばかりの稲穂に小さな白い花



碧の稲、雑草のない水田、隣接の農道には適正な処理

## 手入れなくして美田なし

でしょうか。

農事組合理事の方にたずねると、様々な要因があるようです。田植えのための代掻きの出来も大きな要因だと言います。耕運する前にはかなりの雑草が生えています。これをどれだけ耕運で弱らせることができたか、耕運が

均一で水田の水平レベルが正確に出せたかどうか、そしてきめ細かい水の管理があるようです。

「それともう一つは、細かな日常的な雑草管理。毎日の作業の成果が出るのですよ。」とのことでした。実際にきれいな水田には、どなたかが常に作業をしてらっしゃるのをお見受けします。ご苦労様です。

事情はどうであれ、雑草の少ない水田は見た目にも美しいです。

## 夏の思い出をほんの少しでも



子どもたちもたくさん参加して、でも静かに花火を楽しむ

子ども会の花火大会が8月6日に行われました。

毎年ふれあい盆踊り大会で行なっていた、「花火タイム」はたくさんの花火を子どもたちが楽しむ時間でしたが、盆踊り大会が開催できないままなので、2年間はできませんでした。

しかし、保護者もお互いの顔が分かりづらくなっているという意見もあり、お互いがふれあえる機会が欲しいという意見が出ました。そこで、慰霊祭と花火だけを実施することになりました。

慰霊祭にも多くの自治会員の方がご来場くださいました。花火は小型のものばかりですが、子どもたちが手に持って、流れ落ちるような火花の踊りを見つけていました。

## 浸水対策事業が始まる



水没した自動車（令和3年8月14日）

八方原浸水水体駆事業が実現に向けて大きく前進しました。

8月26日、第3回八方原防災会議が開催されました。3月に行われた第2回の会議で様々な意見が出されました。中でも今回計画されている対策が昨年の水害の際の雨量の場合に、どの

### 農業にできる温暖化防止

カーボンフアミミングという言葉をご存じですか。本来植物は成長の過程で二酸化炭素を取り込み酸素を放出する光合成を行っています。土壌の幸運や肥料などで、温暖化ガスを放出している面もあります。

その量は温暖化ガスの全体の20%とも言われています。それを見直すべき

ような状況になるかという意見に対して、市の担当課は詳細な資料を提示してくれました。

資料では平成21年7月、平成25年7月の豪雨と昨年の比較が説明されました。平成21年豪雨では大きな被害を受けました。その時から各方面にいろいろな働きかけを行ってきましたが、何十年に一度の極めてまれな気象状況だとして、後回しにされてきたのです。

しかし平成25年には時間雨量では125ミリメートルという非常に危険な雨が降ったことが分かります。そして昨年の「お盆豪雨」です。もはや異常な状態ではない、この状態がまた起こりうるということが容易に想像できます。

そこで何らかの対策が急がれることになりました。そこで10年以上前に立案されていた対策案が、再浮上してき

ではないか、せめて差し引きゼロにしようという考えです。

炭素の土壌定着をさせるにはどうするか、特に作物以外の植物を抑えるために「特殊な除草剤」で地面をむき出しにしている状況は良くない状況です。

まだまだ決定的な方法は確立していません。世界各地で様々な方法が試されています。

ました。

それが今回の九田川の榎野川本流への接合部分に水路を設け、水位上昇に従って、緩やかに西側排水路に流していくという方式です。

基準は事業所周辺の市道高さです。その水位に達する際にはその部分が、西側配水路に流れていくようになります。

会議ではそれで効果があるのか、もつと規模の大きなものにできないかという意見や、上流側の岩屋地区の対策が必要ではないかという意見、また

下流側の影響を心配する意見がでま

した。しかし、上流と下流側ののバランスを考えた結果であること、上流側にも今までになかった仕切弁をつけたこと、農事組合法人からも、「たとえ生産被害が出たとしても人命には代えられない。被害の際には保険で対応する覚悟だ」という意見もあり、この計画に全員が賛成することとなりました。

10数年越しの、浸水対策が実現に向けて実際の工事段階に入ります。梅雨の雨音にびくびくしないですむ、八方原がもうすぐ実現します。

### 力を合わせて水田の中の雑草退治



腰をかがめての辛い作業は長時間は無理

8月3日、西側外周路と大森農道の交わる交差点付近に、多くの農家の方が集合しておられました。これから水田の中の稗などの雑草を集中的に取り除くのだということでした。

水田の水平レベルが不均一で水位が狙い通りにならなかつた場合には、その部分だけ除草剤が有効にならないこととなります。その結果、帯状に雑草が生育したところが発生したりするわけです。耕運の際にできた高低がそのまま残ってしまった結果のようです。

ほかの植物に栄養を取られては、稲の発育に影響が出ます。